

夕張高大地域連携プロジェクト スタート



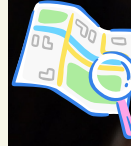
～札幌大学の学生ら夕張を現地視察

2023年6月20日

旧産炭地の夕張市を舞台にした新たな地域連携プロジェクトが始まった。20日は、札幌大学の学生10人をはじめ、北海道科学大、北海道文教大学の学生ら計20人が夕張市役所を訪問。夕張の歴史と今後のまちづくりについて話を聞いた。



はじめに、夕張市教育委員会の学芸員、



山口一樹さんが、石炭や炭鉱夫のモニュメントを学生らに見せながら、国策として進められた採炭事業が1960年代からの「エネルギー転換」で縮小を余儀なくされ、観光事業に力を入れる

ようになった旧産炭地の歴史を解き明かした。

山口さんは、「夕張に住む市民は、まちづくりの変遷を感じながら生きている」とし、「過去は探究しないと自分たちの前にやって来ない」と学生たちに積極的な学びを促した。

夕張が解決しようとしている課題は 将来の日本の課題

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（2020年1月1日現在）

- 老年人口割合が大きい市区 全国1位
 - ・10位以内に入っている、歌志内市、赤平市、三笠市、芦別市はいずれも夕張市と同じ「空知地域の産炭地」
- 年少人口割合が小さい市区 全国2位
 - ・1位は歌志内市。また10位以内には老年人口割合が大きい市区と同様、芦別市・赤平市も入っている

少子高齢化が進むと、労働力人口の減少、地域経済の悪化、行政機能の維持が困難になる

ますます住みにくくなり、人口の流出がさらに進む可能性

それでも！夕張は何度も困難を乗り越えてきたまち

必ずこの課題も乗り越えられます！

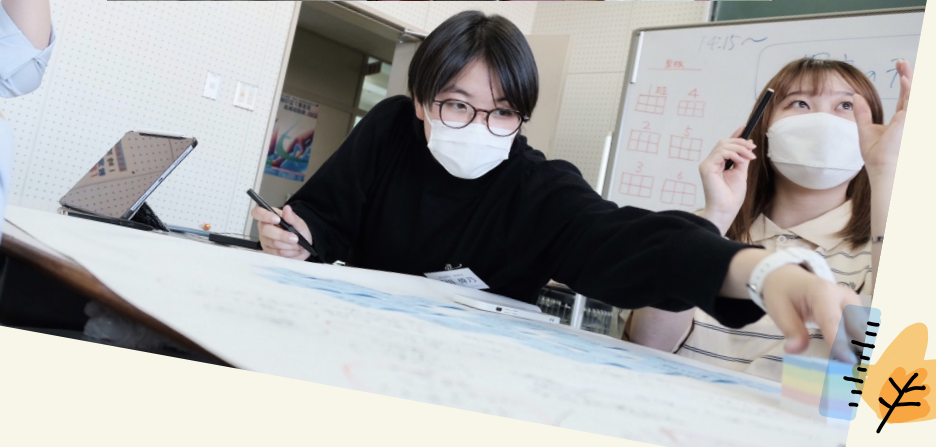
夕張市の厚谷司市長は、「夕張市の課題と地域の将来像」について話した。

財政再建を進める夕張市は、あと4年で借金の返済を終える、とし「コンパクトシティ」政策を進めている、とした。

厚谷市長は、かつては、都市計画の概念がなく、「炭鉱があるところに人を住まわせていた。これは、人口が減少すると非効率」とコンパクトシティ化の背景を明かした。夕張市は高齢人口の割合が全国1位で、年少人口の少なさは、全国2位。厚谷市長は、企業誘致などで雇用を確保し、人口流出に歯止めをかける一方、高齢者の健康増進策の必要性を説いた。



この後、参加した3大学の学生らは、夕張高校を訪れ、少人数のグループに分かれて、夕張のまちづくりについて高校生らと話し合った。



①参加する札幌大学の学生は、早い段階で「夕張の歴史と現状」について、より詳しい学びが必要、と感じた。

夕張市の説明は、学芸員、市長とも持ち時間が30分ずつ。駆け足での説明となり、参加学生は必ずしも理解できていないようだった。このため、夏休み前までに大学で学習会を設けるのがよいのではないかと。

また、夕張市内の見学に割く時間が限られていたため、現地入りしたものの、街の様子を把握しがたかった。

別途、視察の機会を設けたい。夕張高校の生徒に町の案内をして欲しい、という大学生もいた。

②夕張高校でのグループワークは、高校生が積極的だった反面、参加した大学生が夕張の街について詳しく知らないため深い議論になっていない印象を受けた。

また、今後、大学生が学びを深めた場合、高校生との討議に比重を置くだけでなく、市役所スタッフ、メロン農家をはじめとする農協関係者、夕張に進出した企業経営者らからの聞き取りなど現地調査も大切と考える。

プロジェクトに参加する札幌大学の学生には、「何を学ぼうとするか」の目的意識を持たせることが必要だろう。初日は、学習の振り返りをさせ、用紙に記入させたが、学びたいテーマが定ま
っていない学生が少なくなかった。この点は、今回のプロジェクトのテーマ、目標をより明確にする作業と合わせて取り組むべき課題と感じた。